芦屋市地域発信型ネットワーク　平成２８年度の取り組みまとめ

参考資料１

（理念）　だれもがその人らしく住み慣れた地域で、いきいきと安心して暮らせるまちをめざす

市民　インフォーマル支援者・団体等

小地域福祉ブロック会議

- 小学校区内の地域住民代表や各種福祉諸活動関係者等による「小地域福祉ブロック会議」を構成
- 地域課題に対するネットワーク活用による地域づくりのための具体的活動

認知症理解を広める

取組：認知症ｻﾎﾟｰﾀｰ養成講座の開催（宮川）
認知症啓発ポスターの作成（宮川）

A-1

「講座は受けたけれど、街で出会う見知らぬ人が、認知症かどうか分かるのは難しい」
「その人が認知症であることを知っていれば、声がかけやすいが」
「関わり方を具体的に示されれば関われるが」

相談窓口へつなぐ取組を考える

取組：見まもりポイント啓発資料作成予定（朝日ヶ丘）
相談窓口一覧作成予定（岩園、潮見）

地域の活動を共有する

取組み：地域の活動一覧作成（潮見【予定】、潮芦屋）

多世代交流を進める

取組み：歌おう会開催（打出浜）
多世代交流防災訓練実施（浜風）
子ども会と老人会の協働事業の検討（潮芦屋）

災害に備えた地域の取組を考える

小ブロックより小さい単位で取組を考える（山手、三条、精道）
取組例：ﾏﾝｼｮﾝや民間施設との避難協定
自主防災訓練の実施

中学校区福祉ネットワーク会議

- 各小地域福祉ブロック会議代表者と各種専門機関の中学校区代表者で構成する「福祉ネットワーク会議」を構成
- 「福祉ネットワーク会議」では生活圏域における課題の共有，検討，集約を実施
- 高齢者生活支援センターが主催する「地域ケア会議」障害福祉課が主催する「自立支援協議会実務者会」，子育て推進課が主催する「要保護児童対策地域協議会個別ケース検討会議」と連動

A-2

認知症にやさしいまちづくりのために

事業所への認知症理解
認知症であることを近隣に話しやすい環境づくり
認知症当事者の思いを知る方法などを考える

A-6①

話しやすい環境づくり
・認知症理解の啓発について
・地域でのつながり作り

A-5

事業所への認知症理解
・認知症サポーター養成講座のメリットを知らせる
・気づきのポイントを知らせる
（例：予約を忘れる）
当事者の思いを知る方法
・当事者、家族へのインタビュー
・体験エピソードを語る場

A-4

生活物品等ゆずりあいネットワークをすすめるために

物品提供の呼びかけ先、呼びかけ方法などを考える

B-1

B-2

呼びかけ先
・民生委員、福祉推進委員、自治会
呼びかけ方法
・引越し時期に合わせて PR
・社協だより、自治会だより等で広報
・メーリングリスト

B-3

本格実施向けて検討

地域ケアシステム検討委員会

・会議間のコーディネート機能
・所属機関の業務への反映、施策化の検討
・ネットワーク全体の会議の進捗管理と評価

認知症理解を事業所に広めるために

認知症地域支援推進員の取組
・事業所へのニーズ調査のヒアリングを実施
社会福祉協議会の取組
・地域見まもりネット事業登録依頼時に認知症ｻﾎﾟｰﾀｰ養成講座の PR

A-3

「困ってない」
「認知症の人は、ヘルパーか家族がついてくる」という答え
しかし、実際に“スーパーでのトラブル”や“見まもりネット登録事業所からの連絡”がある

A-6②

認知症当事者のニーズ把握の実施

A-7

相談窓口の周知のために

社会福祉協議会の取組
・医師会の協力で、医療機関に総合相談窓口のチラシを設置

生活物品等ゆずりあいネットワークをつくるために

パイロット事業を実施

芦屋市地域福祉推進協議会

・医療・保健・福祉の総合調整
・システム全体の運営における基本方針協議
・福祉施策への反映を協議

各会議体や、地域活動を評価するツールが無い

C-1

次年度の活動提案

地域アセスメント

認知症当事者のニーズ把握

A…認知症
B…ゆずりあいネットワーク
C…評価